

令和4年度 軽米高等学校 教職員 働き方改革アクションプラン

～新しい生活様式 かるまい、健康のすすめ～

軽米学校では、「岩手県教職員働き方改革プラン(2021～2023)」に基づき、以下の取組により、「学校における働き方改革」を推進します。

1 現 状

- (1)生徒指導
 - ア 進学(国公立大・専門校ほか)及び就職(民間・公務員他)など生徒の進路希望が多岐にわたり個々の指導に時間を要する。
 - イ 多様な生徒が在籍し、生徒及び保護者との面談や対応に複数の先生方が携わっている。
- (2)中高一貫教育
 - ア 本校に事務局があり、本校発信の文書、行事が多い。
- (3)校務処理
 - ア 部活動指導(特に大会引率、合同練習)に伴い、勤務時間外勤務が80時間を超える職員が毎月数名いる。
 - イ 担任、主任など、ほとんどの教員が役職をもっており、業務分担に余裕がない。
 - ウ 業務の整理と引き継ぎが要領を得ず、業務が滞ることがある。

2 目指す姿

- (1) 教職員一人ひとりが、多様な生徒に対応しつつ、業務の遂行により達成感を得ている。
- (2) 管理職・教職員がコミュニケーションをとり、業務の適正化を図っている。
- (3) 分掌主任・学年主任が率先して働き方改革を推進している。
- (4) 教職員が、ワーク・ライフバランスを確保できている。

3 取組内容

○ 教職員の健康管理

- ア 軽米高校の働き方改革プランの取組を確実に実施し、教職員の健康を促進する。
- イ 管理職が、教職員の健康観察を心掛け積極的に声掛けをする。
- ウ 年次や特別休暇を取りやすい環境整備を行う。
- エ 積極的な余暇の過ごし方を推進する。
- オ 水曜日のノー残業デーを中心とし、平日のうち1日のノー残業デーを各自設定し、健康増進に努める。

○ 学校における業務改善の推進

- ア Teamsを活用し、ポイントを絞った説明を心掛け、省力化と時間の縮減を図る。
- イ 業務の共有ファイル化、データ化による事務負担の軽減を図る。
- ウ 各自が月毎の超勤時間を把握し、業務改善にあたる。
- エ 「特割」等による勤務時間調整の徹底を図る。

○ 学校及び教員が担う業務の明確化・適正化の推進

- ア 業務改善ワークショップの実施により、業務の適正化を推進する。
- イ 事務処理、行事・会議を見直し、簡素化・効率化を推進する。
- ウ 同窓会や外部団体と連携する業務について、関係団体と一体となって、業務の効率化、負担軽減を取り組みを検討する。

4 目 標

- (1) 時間外在校等時間が月100時間以上の職員 → 0人
- (2) 時間外在校等時間(週休日の部活動指導従事時間を除く)が月45時間超の職員 → 20%以下
- (3) 「部活動方針」に則り週1回の部活動休養日を設定する部活動→100%
- (4) 月に1回以上定時退勤を行う教職員→100%
- (5) 職員の年次の取得年間 10日以上取得→100%

令和4年5月24日 軽米高等学校長 金濱 千明

(参考)「岩手県教職員働き方改革プラン(2021～2023)」(抜粋)

【策定趣旨】

- 働き方改革の実現により、岩手の未来を担う大切な子どもたちに、質の高い教育の持続的提供につなげる。

【プランの期間】 令和3年度～令和5年度までの3カ年度

【プランの目標】

目標1 県立学校の教員の時間外在校等時間の縮減

- (1) 時間外在校等時間が月100時間以上の者をゼロにする。

- (2) 時間外在校等時間(週休日の部活動指導従事時間を除く。)が月45時間超、年360時間超の者を下記のとおり段階的に縮減する。

時間外 在校等時間	取組期間		
	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
月45時間超	令和2年度実績の 5割減	令和2年度実績の 8割減	ゼロ
年360時間超			

目標2 業務への充実感や、健康面での安心感の向上

令和5年度において、アンケート調査に基づく肯定的実感が令和3年度の実施結果から向上することを目指す。